

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 川越町	対談項目1 広域避難所について	広域的な避難者の受け入れ施設の整備、行政区域を越えた避難者の避難場所の確保と調整	<p>当町は全域がほぼ海拔ゼロメートルであり、南海トラフ巨大地震が発生した場合の被害想定調査でも埋立地を除いて浸水が予想される。避難者数も過去最大クラスで、全人口の8割強にあたる12,000人が被災し、発災後1か月は浸水の状況が続くことが予想されている。このような結果を見ると、避難者を受け入れる町の避難所も浸水し、避難者を受け入れる状況でないことになる。津波により広範囲にわたって浸水被害が発生した場合は、町だけでは対応ができないため、行政区域を越えて避難者を受け入れていただくかなければならない状況が発生することになり、その避難先となる避難所の確保が重要な課題である。</p> <p>町単独で避難者を受け入れる施設の確保は困難であるので、三重県において独自に広域的な避難者の受け入れ先の確保や整備、広域避難となる受け入れ先の調整、行政区域を越えての仮設住宅建設について、今回の対談の項目とした。</p> <p>1 県の北勢地域における広域防災拠点に避難者を受け入れる施設の整備などの考えは？ 2 広域防災拠点以外に広域的な避難所の確保と受け入れ調整についての考えは？ 3 行政区域を越えての仮設住宅の建設場所の確保や建設場所の調整についての考えは？</p>	<p>広域防災拠点に併設ということについては、北勢の拠点は特に県が大きく被災した時に、県外からのたくさんの部隊の受け入れの窓口になるべく想定している。そういう意味では、発災してからしばらくは、部隊やさまざまな災害協定を結んでいる業者の皆さん等がたくさん出入りし、そこを拠点に物資の供給等を行っていく場所と考えている。そこに避難者の方がたくさんおられるのは、部隊等と混在し逆に危険性が伴ったりする可能性がある一方で、併設は難しいかなと思っている。一方で広域防災拠点としては、部隊や関係団体が来てもらう場、物資の確保をしていく場、避難者への物資供給を迅速に行っていく場ということで町の皆さんのご意見も伺いながらしっかり充実したものにしていきたいと思っている。</p> <p>広域避難施設の確保については、県全体の被害想定を出させていただいたのが今年の3月末なので、今各市町において、それをふまえた避難計画の再点検をしていただいているので、その内容を見て議論させていただければと思っている。広域避難施設を作ろうと思うと非常に多額の財政支出を伴うので、そのあたりの財政支援の制度を特に海拔ゼロメートル地帯を抱えている所については、手厚くしてほしいということをおっしゃっていただいたので、それを昨日山谷大臣にお願いしてきた。山谷大臣からは年末の予算編成に向けてしっかり検討していきたいとおっしゃっていただいたので、そういうのを見ながら、各市町の避難計画を見ながら、検討をさまざまな視点で進めていきたいと思っている。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
2 川越町	対談項目1 広域避難所について	仮設住宅の設置場所の確保と調整		<p> 応急仮設住宅を作る前に既に建っている公営住宅や民間賃貸住宅で使える所を全部使わせてほしいという思いであり、提供してもらえる民間団体3つと災害協定を結んでいる。それで足りない部分を応急仮設住宅ということになるが、建設候補地については各市町のご協力をいただいてリストアップし、GISに登載する作業を進めている。事前準備として候補地をたくさん登録しておくこと、場所が決まったら円滑に建設が進むような事前準備が大事だと思うので、市町の皆さんとよく相談調整しながらこれから進めていきたいと思っている。 </p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
3 川越町	対談項目1 広域避難所について		<p>県立高校も広域避難の施設になるかと思うが、当町からみれば四日市地域の北星高校、桑名地域の桑名高校や桑名西高校が挙げられるかと考えている。</p> <p>また、広域的な仮設住宅の建設場所としては、四日市市内にある伊坂ダムが一つの候補になるのではないかと考えている。</p> <p>いずれにしても、いつ起こるか分からない南海トラフ地震に対して、今後は広域的な対応が必要となってくるので、県の防災減災対策の一環として対策をよろしくお願ひしたいと思うがいかがか？</p> <p>当町は海拔ゼロメートル地帯ということで、他の市町や県の施設を頼らざるを得ないという状況であるので、その辺をご理解いただき、県としても広域避難の在り方についての対策をよろしくお願ひしたいと思う。</p>	<p>北星高校、桑名高校、桑名西高校とも津波浸水区域外にあり、既にそれぞれの市の避難場所として指定されているので、広域避難施設として活用する場合には市との調整が必要になる。高校だけでなく県管理施設全体で広域避難所として活用できるかどうかは、それぞれの市町の避難計画をベースと一緒に検討していきたいと思う。</p> <p>伊坂ダムについても広域的な応急仮設住宅の建設場所として適切かどうか、四日市市、関係機関(企業庁)と一緒に一つ一つのアイデアとしてよく検討していきたい。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
4 川越町	対談項目2 朝明川河川整備計画について		<p>朝明川の河床掘削及び樹木伐採については、本来なら河川管理者の県で施工していただくところだと思われるが、県の予算事情もあり、進捗が伸びない中、当町としても天井河川という状況を鑑み、県と町の協働事業として進めてきている。また、残土置場も町所有地を提供している。河床掘削や樹木伐採に関しては順次施工されているが、ここ数年間においては同様な場所の掘削も行われており、採ってはすぐ溜まるという個所も見受けられ、抜本的な改修も必要ではないか考える。</p> <p>1 この河川の課題については、平成23年度及び24年度のトップ会議で、河川堤防の整備・補強について伺った。その際、「現在、河川整備計画を策定中である」と伺ったが、現状における朝明川河川整備計画の策定状況はどのようなになっているのかお伺いしたいと思う。</p> <p>2 防災等の面も含め計画されていると思うが、その中で堤防の具体的な整備方法、計画はどのようなになっているのか？</p> <p>3 整備時期についての考えも伺いたいと思うがいかがか？</p>	<p>朝明川の下流域の堆積土砂の撤去、樹木伐採について、川越町に協力・協働していただいで対応いただいたこと、県の財政が厳しいということもある中であつたので、この場を借りてお礼を申し上げたい。</p> <p>河川整備計画の策定状況については、25年度中に作るかと計画し、流域委員会・懇談会とも一定了解を得てきたところであつたが、国との調整の中で雨量・流量の妥当性の検証を求められたため25年度中に作る事ができなくなった。雨量・流量の妥当性の検証を改めて行い、この10月に国との事前協議が完了し、現在、他の関係機関との協議を進めており、12月を目途に国に対して同意の申請を行う予定である。今年度中に策定できるよう進めていきたいと思つている。</p> <p>整備計画の内容としては、十年に一回発生する程度の降雨に耐えられるようにということ念頭に置きながら、横断工作物の改築、護岸整備、河道掘削の工事範囲等を整備内容として位置付けていく予定である。具体的にどの個所をどのような整備時期でやるのかということについては、優先度もあるかと思うので、川越町や関係の皆さんと相談させていただきながら具体的に決めていくという過程にしていきたいと思つている。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
5 川越町	対談項目2 朝明川河川整備計画について		町の河川堤防はいろんな面で使われている。生活道路の一つとして、他の市町とを結ぶ道路ネットワークとしての一つとしてなど、様々な役割を有しており、防災の面、生活基盤の面で重要な施設である。避難をする時にも利用される地区も出てくるかと思う。耐震のことも考えていただいて整備をしていただければと考えている。	朝明川では平成23年に河川堤防の緊急点検をさせていただいた。脆弱個所があるということなので、27年度にそこを改修したいと思っている。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
6 川越町	対談項目3 『三重県の子育て支援について』		<p>子育て支援については、今後はさらに多様性と専門性に応える行政サービスの提供が必要になると予想している。子育て支援に係る施策としては、保育所や児童館、子育て支援センター、学童保育所といった事業がある。県の方からも各市町に助言をいただいているが、その支援についても多様化、複雑化に対応できる適切かつ柔軟な支援をお願いできないかと思う。例えば、子育て支援センター事業についての支援、放課後児童クラブへの県独自の補助による柔軟なご対応をいただきたいと思う。</p> <p>ニーズとサービスの乖離は、地域の特性によって多種多様な形で各市町の事業に内包されているものと思われ、子育て支援に関する施策は地域の実情に応じ、より柔軟である必要があると考える。みえ県民力ビジョンにおいても、保育サービスや都市保健サービスの充実に向け、地域の実情に応じた支援や、広域調整の支援に重点を移行すると記載されていることから、県の各地域の現状を鑑み、どのように子育て支援に関する政策を展開していくのか、知事に現在の考えを聞きたい。</p>	<p>子育て支援というのは、地域によって実情が違うので地域に合わせてやっていくべきではないかということについては、おおいに賛同するところである。県でも今年度から、県の中でも地域によって子育て環境が違うので地域の実情に応じて基礎自治体ごとに子育て支援ができるようにと県独自の交付金を作らせていただいたところである。こういう思想についてはこれからもずっと変えるつもりはないし、そのようにしていかなければならないと思っている。</p> <p>県全体では保育ニーズのピークが来年度にきて、その後減っていくという見込み量になっているが、このピークもそれぞれバラバラである。「子ども・子育て支援新制度」も単に保育所の量を確保するというだけでなく、幼稚園や認定こども園の教育ニーズと合う形で質の充実もはかっていくというような制度の趣旨であるので、それぞれの町の状況に合わせた形で支援をしていければと思っている。</p> <p>放課後児童クラブでは、幼稚園や保育所で5歳までは預ける所があるが小1になるとなくなる「小1の壁」があり、非常に苦勞されている方が県内に多いということで、来年度は国がどのような制度設計をしてくるか分からないが、国の方を見ながら県も今までの制度を少し点検・見直しをして、市町とか単独でもらっている要望、市長会・町村会で要望をもらっているケースもあるので、来年度は放課後児童クラブについては予算は必ず増やして、その上で中身についても市町の皆さんの話をよく聞いたうえで、対応をとっていきようにしていきたいと思っている。</p> <p>子育て支援センターについても柔軟にということであり、また地域ごとにニーズは違うので、そういうのを応援できるような形にしていきたいと思っている。</p> <p>母子保健についてもそれぞれ各市町で抱えている、保健師の数であったり、医療支援の問題、民生委員の方の平均年齢等色々あると思うので、そういうのもしっかり地域の実情をふまえた形でできるようにしていきたいと思っている。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
7 川越町	対談項目3 『三重県の子育て支援について』		子育て支援施策は、長期的な展望が必要であると思う。計画的な支援となるようお願いしたいと思う。また、広域的な調整が必要となることが多々あることから、県としてもリーダーシップをとっていただき、ご期待申し上げたい。	地域の特性に合わせた形で、今年子どもや少子化関係の計画を今一気に見直しており、来年度からスタートできるようにしている。「子ども・子育て支援新制度」の事業支援計画もそうであり、「子ども・少子化対策計画」(仮称)というものもつくっている。これは比較的包括的なもので、その中にはひとり親家庭の支援も含めている。今年改正された母子及び父子並びに寡婦福祉法に父子というのも入り、父子家庭の支援も入ってくる。母子保健の計画である健やか親子21というのもあり、これについても今回見直して来年度から今申しあげた計画を一気にそれぞれスタートできるように現在準備している。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
8 川越町	対談項目3 『三重県の子育て支援について』		<p>保育士の方が少ないという問題が起こっており、厚労省の資料によると平成29年度までには全国で7万4千人位が不足すると推計されている。これを確保していただくために、待機児童解消加速化プランによる保育士の確保に向けた総合的な取組が進められているわけであるが、当町は交通の便が良く、近隣市町との連絡も良いということから、保育士が県外、大きな市の方へ行かれるのかなというところがある。そのあたりを問題として捉えているので、その辺もいろんな解決策を県としてもとっていただくようお願いしたい。</p>	<p>仮に保育所を作ってもそこに働く保育士がいないと全く意味がないので、保育士の確保は非常に重要だと思っている。県は潜在保育士、保育士の資格を持っていないながら、結婚や出産を期に退職されて今自宅にいるという方の掘り起しと登録をし、それをマッチングするというような事業をやらせてもらっている。そのマッチングをやるための場所として保育士・保育所支援センターに職員を増員してそういうのをできるようにということと、保育士の仕事の魅力を知ってもらうために学生向けのフェアをやらせていただいている。また、保育団体から要望の多い、保育士確保のための修学資金みたいなものも来年度予算に向けて、まだ確定ではないが検討を進めさせていただいているところであるので、喫緊の保育士の確保については県としてもしっかり取り組んでいきたいと思う。</p>